

委員質問・意見書

(12月13日) 受付分

(高桑委員)

● 原子力規制庁 に対する 質問

12月の定例会で説明いただいた「原子力災害事前対策の策定において参照すべき線量のめやすについて」お聞きします。

① 「事前対策のめやす線量は、原子力災害発生初期(1週間以内)を対象とし、避難行動などを伴う緊急防護措置に関するものであり、実効線量で100mSvの水準とする」に関して

・100mSvは20～100mSvの上限値であり、成人にとっても高い線量と考えますが、子供や胎児への配慮はどのようになっているのですか

② 「Cs137の放出が100TBqに相当する事故(希ガスは全量放出されるものとする。また、原子炉停止から放出開始までの時間は24時間とする)に対して、被ばく線量がめやす線量100mSv/週を超えないように計画を立てることである」に関して

・現在示されている避難計画では、PAZは放射性物質放出前に避難、UPZは500 μ Sv/h(50mSv/週)で即時非難となっています。明らかに100mSv/週より小さい値です。めやす線量をこのように決めたことは、今後事故の際は100mSv/週までの被ばくは覚悟しなさいということですか

③ 「極端な事故においても、被ばく線量がめやす線量100mSv/週を超えないことを求めるものではない」に関して

・原子炉停止から放射性物質放出開始までの時間が24時間より短い場合は、極端な事故に該当するのですか

- ・大雪、地震等との複合災害の場合は極端な事故に該当するのですか。
- ・極端な事故の場合、被ばく線量がめやす線量 $100\text{mSv}/\text{週}$ を超えることがあり得るといふことですが、原子力災害対策の基本目標を確実にできるのですか。

④ 「原子力災害の事前対策に関する防護措置の状況を踏まえ、適宜見直していく」に関して

- ・具体的にどのような状況で見直していくのですか

⑤ 「原子力災害事前対策の策定において参照すべき線量のめやすについて」の内容は、被ばくする側の住民にとって我が身の問題です。住民に説明し、住民の了解を得る必要があると考えます。

- ・住民に説明し、了解を得ることについて、どうお考えですか。

委員質問・意見書

(12月16日) 受付分

(竹内委員)

● 東京電力HD(株) に対する 質問

①市長への回答資料、洞道の地下2階（地下5m）と地下6階（地下22m）はそれぞれ、標高でいうとどのくらいでしょうか。

②原発構内にケーブルが通っている洞道はどのくらいあるのでしょうか。また、このような洞道の位置を、地図などで柏崎消防と共有していますか。

③洞道内に地下水が染み出したりすることはないのでしょうか。

津波や大雨の際に、洞道に水が入り込まないようになっていますか。また、洞道は換気をすることができるものなのでしょうか。

委員質問・意見書

(12月18日) 受付分

(宮崎委員)

● 東京電力HD(株) に対する 質問

1. 11月1日発生したケーブル洞道での火災について、12月5日説明を聞きましたが、十分な理解ができませんでした。そもそもの説明からお聞かせください。

(1) 緊急用電圧電源盤とケーブルは何を目的に、どんな仕組みで作られたものですか。

何故「電圧電源」というのですか。「ケーブル」につながる「地絡」とはなんですか。

私の理解では、原発が外部電源を失う事故に至った時、高台に配置された電源車から電気を送る。電源車のコードのプラグを差し込むコンセントが「緊急用電圧電源盤」と言うことでしょうか。さらに、コンセントと原発内にある電源盤をつなぐのが「ケーブル」と言うことでしょうか。説明では「地絡」と言っていました。家庭用の洗濯機などついていアースと同じと理解しました。なんで原発内にある電源盤からアースを取らないのですか。

(2) 緊急用電圧電源盤やケーブルは、どのような条件のもとで、何カ所設置されているのですか。電源盤の数に応じた電源車があるのですか。今回は7号機用ケーブルの事故でした。

1～7号機に対応した7つの電源盤があると理解しました。5～7号機は大湊側に建てられていますが、今回の電源盤は「荒浜側」と断っていますから、大湊側にも7つの電源盤があるのですか。そうすると、電源車は少なくとも14台あると理解してよろしいですか。

また、電源盤が高台にあるということは、水没させないためと理解しますが、ケーブルが地下溝にあります。水没防止はどのようになっていますか。

- (3) 説明では「通電による損傷部の過熱など」となっています。また、「損傷部同士がショートし」となっています。11月1日朝6時ころ、電源車から電源盤を通して電気を送ったのですか。電源車から送っていない場合は、原発内にある電源盤から電気を送るようになっているのでしょうか。また、「損傷部同士がショート」したと説明がありましたが、金属線が接触してはいませんか。両ケーブル線に間隙あったと思われませんが、一体どれだけの電圧がかかってショートとしたのですか。
- (4) 絶縁テープは、温度変化によって変形し、亀裂ができたり、絶縁効果を低減させるとの説明を聞いて納得しました。ケーブルの接続箇所が多いとも聞きました。チェックが甘く、亀裂や異常状態を確認できなかったのではありませんか。ケーブル敷設工事で最後、試験通電してテープの状態や発熱状態をチェックしたのでしょうか。また、定期的に、試験通電することはなかったのですか。荒浜側からの試験通電は何回したのですか。敷設工事完成時に引き渡しで通電検査はありましたか。
- (5) ケーブル洞道のつくりが、地下5mと22mに横穴ができていますが、どうしてこのようになっているのですか。過酷事故の備えと関係がありますか。

以上